



「字のない葉書」

県南教育事務所長 福地 裕之

「字のない葉書」は、向田邦子さんの隨筆で中学校の教科書にも掲載されているものです。

私は、県南地区の初任者研修の折に模擬授業を行ってみました。

(T=福地 S=初任者)

T : 筆者が発見した父の姿は何ですか？

S : ふんぞし一つで家中を歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子どもたちに手を上げる父でしたが、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父です。

T : 足りないです。

T : 「発見した」ですよ。発見したとは？

S : 今まで知らなかったことを初めて見つけ出すこと。

S : 「私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た」とありますね。

T : 言葉を見て、気がつくことはありませんか？よ～く読んでみてください

S : 「声を上げて」と「声を立てて」とあります。

T : 違いは何でしょうか。

今日は、このあたりからみんなで考えていきましょう。(中略：様々な視点から考える)

T : もう一度、筆者が発見した父の姿は何ですか？

S : 私たちを心の底から思ってくれた父、誰よりも愛してくれていた父の姿でしょうか。

S : 父と私たちの心のきずなを初めて見たのです。それは、一生切ることのない永遠のものです。

(多少、内容に脚色あり)

授業はおもしろい。子どもたちの驚きの姿、真剣に考える姿、体全体で表現する姿を見るとたまらない。教師冥利に尽きるが、奥深く、授業づくりには悩む。

忘れていいことがある。すばらしい授業案を作つても、学び合う学級になっていなければ、確かな学びにはつながっていない。子どもたちが安心して身をまかせられ、肩をはって自己主張しなくとも一人一人の存在が大切にされ、認められるという信頼関係が築かれていく学級づくりが基盤になってくる。

8月1日(火)、県南教育事務所による「学級づくり・授業づくりセミナー」(ワールドカフェスタイル)を開催します。あったかい雰囲気の中、カフェしながら考えてみようと思っています。きっと、大切な何かを発見することができるはずです。

～『学校教育を支える基盤の確立』～

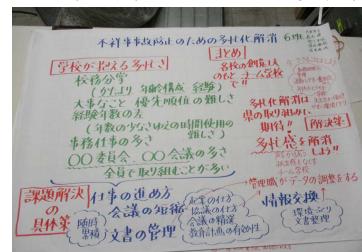
平成29年度学校事故防止対策研究協議会（期日：平成29年5月24日(水)、会場：西郷村文化センター）が、各小・中・県立学校の教頭、各市町村教育委員会の担当者を対象に行われました。

今年度の協議は、昨年度の協議（各学校で作成している「不祥事防止のための行動計画」をもとにした各学校的課題とそれに対する取組についての協議）から明らか

になった、教職員の不祥事・事故につながる大きな原因の1つ「多忙化(感)」に焦点をあてて行いました。参加者は、グループごとにファシリテーション・グラフティックの手法を用い

て、自由に意見を出し合ながら、協議を行いました。その結果、「思い切って仕事のスリム化を図ることが大事である。」「課題に対して組織的に対応することが大切である。」「お互いに助け合う職場づくりを推進し、多忙感の解消を図ることが大切である。」「県としての多忙化解消の取組に期待したい。」「教師の働き方の意識改革が大事である。」など様々な意見が出されました。

誰もが教職員の不祥事・事故の原因の1つが「多忙化(感)」にあり、その解消が必要であるという認識に立って、具体的な解決策を講じていくことが大切であると、今回改めて感じました。



夢と希望をはぐくむ県南の教育の推進

～学校教育課関連記事～

「豊かなこころの育成」

県南教育事務所では、「豊かなこころの育成」を目指し、特に、「道徳教育の充実」および「教育相談体制の整備」に重点を置いて、取り組んでいます。

道徳教育の充実については、来年度の小学校での教科化開始に向け、「考え方、議論する道徳」の研修の充実、実践の推進を図っています。直近では、8月4日（金）に、「『特別の教科 道徳』の実施に向けた地区別道徳研修会」を白河合同庁舎大議室で開催します。

また、「教育相談体制の整備」では、児童生徒のニーズに応じた心のケアのための、スクールカウンセラー（以下SC）やスクールソーシャルワーカー（以下SSW）、関係機関との連携を密にした教育相談の充実を図ります。

ところで、時折「SCとSSWの違いがよくわからぬい。」というご質問をいただくことがあります。

一言で言うと、SCは、児童・生徒の内面の環境を改善するための支援を行い、SSWは、児童・生徒の外的環境を改善するための支援を行う、というのが一番簡潔な整理のしかたです。これからは、事態の改善や解決のため、学校がSCやSSWと連携し、それぞれの特性を生かすためのコーディネートをすることが、教育相談体制の整備・充実にとって非常に重要です。

「健やかな体の育成」

平成28年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査報告書から、運動習慣と心理的側面、体力と心理的側面の間に関連性が認められました。

体力の向上に関する直接的な取組だけでなく、下に示すような項目を確認し、運動の習慣化、運動やスポーツに対する肯定的な意識を高める取組が重要となります。

- ・授業の目標が示されているか。
- ・授業の最後に内容の振り返りの活動をしているか。
- ・友達と助け合ったり、役割を果したりする活動をしているか。
- ・友達同士やチームの中で話し合い活動をしているか。

また、調査報告書に添付されている「学校用確認シート」「取組チェックシート」「CD」を活用し、PDCAサイクルにより総合的に取り組んでいただきたいと思います。

食に関する指導は、食生活環境が大きく変化する中で、健康の保持増進のみならず「生きる力」を育む上で効果があります。「自分手帳」を活用しながら、児童生徒一人一人が自己の体力や健康に関心をもち、運動習慣や食習慣、生活習慣の改善に取り組むことができるように支援して参ります。

「確かな学力の向上」

5月17日（水）に学力向上担当者等研修会を開催しました。本年度は、各学校管理職と研修主任の2名に参加いただきました。「自校の課題を踏まえた学力向上策」を小グループで発表し、他校と情報交換を行い、さらに、管理職と研修主任で協議し、自校の学力向上策について改善を行いました。自校の課題解決のために、各学校とも授業及び授業周辺部での具体的な取組が示されていました。今後、学力向上マネジメントワークシートにより、年間を通してPDCAサイクルで取り組まれていくことだと思います。

県南教育事務所としましても、「確かな学力の向上」の重点として

- 1 繼続的な検証改善サイクルの確立
- 2 「確かな学力」の向上を図る授業づくり
- 3 「確かな学力」の向上を支える基盤づくり

を挙げています。本年度は、スキルアップ訪問を除き、要請訪問、計画訪問、学びのスタンダード訪問等で、のべ33回訪問させていただく予定です。これらの訪問で、重点及びふくしまの「授業スタンダード」に基づいた具体的な助言等を行いながら、先生方の「授業力向上」及び「確かな学力の向上」が図れるよう支援して参ります。

「特別支援教育の推進」

県南特別支援教育連携協議会

5月26日（金）に、県南特別支援教育連携協議会（定期会）を開催しました。教育、福祉、医療及び労働等の関係機関が、本県における特別支援教育の現状と支援体制整備に向けた取組について理解を深め、各市町村での支援体制整備に向けた取組について、情報を交換しました。

平成28年4月に「障害を理由とする差別の解消に関する法律」が施行され、一年がたちました。「個別の教育支援計画」には、「合理的配慮」の内容について明記することが望ましいとされています。

協議の中で、「個別の教育支援計画」の活用の実際について、市町村教育委員会が、様式統一に向けて検討したり、合理的配慮の明記の仕方について確認したり、各市町村の取組が共有され、市町村における支援体制の充実に向けて具体策を協議することができました。

「地域で共に学び、共に生きる教育」の推進

学校や市町村教育委員会等のニーズをうけて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒の指導・支援に向けて、特別支援学校・特別支援教育センター・教育事務所のチームで「相談支援」と「研修支援」を行っております。手続きに関しては、県南教育事務所までお問い合わせください。

家庭・地域の教育力向上のために

～県南教育事務所の家庭教育応援プロジェクト～

県総合教育計画の中に、三つの基本目標の一つとして「学校、家庭、地域が一体となった教育の実現」があります。これを受け、県南教育事務所の社会教育の重点として、「家庭・地域の教育力の向上」を掲げ、県南独自の内容も取り入れながら「家庭教育応援プロジェクト」として次のような事業を展開しています。

1 地域家庭教育推進県南ブロック会議

教育事務所が実施主体となり、域内の学識経験者、PTA連絡協議会、学校関係者、企業、地域の子どもと関わる団体、行政関係者の代表で組織し、域内の課題等から事業内容の検討や評価を行います。



<第1回県南ブロック会議>

第1回目の会議では、「子どもにとって家庭が一番の居場所ではなくなってきている。」「子どもの行動範囲が広がっている。」「家庭にある問題が複雑化している。」

「地域の教育力の再生が必要である。」などの問題点が出されました。今後は、それぞれの立場で家庭教育を推進し、連携を深めて家庭教育の重要性をさらに広めていくことを確認しました。

2 家庭教育支援プログラム

PTA行事や家庭教育学級充実のために、関係団体協力のもと、次のようなプログラムを準備しています。

(1) 親子の体験を豊かにするプログラム

○親子で遊ぼう！心のケア教室

(バルーンアート、物作り、昔遊びなど)

○親子で体験！ニュースポーツ

(フライングディスクやキンボールなど)

○親子で楽しむ読み聞かせ教室

(語り、読み聞かせなど)

(2) 親子の学びを充実させるプログラム

○非行防止の子育ての方法

○親子で学ぶ携帯モラル教室

○子どもと向き合うために

○家庭で実践、食育講座

○お口のための歯科教室など

(3) 家族の絆を深める実践プログラム

○気持ち伝わる「十七字絆ふれあい」支援

○メディアコントロール支援

○我が家家の「早寝、早起き、朝ごはん+α」運動

3 家庭教育応援企業推進活動

企業への家庭教育のに関する資料提供、運営アドバイス、講師紹介等を行います。

4 フォローアップ研修

域内の実態に応じた研修を行い、家庭教育支援者の実践力を高めます。(11月実施予定)

小 学 校

「二小っ子」

白河市立白河第二小学校

本校の子どもたちが一番好きな学校行事は、「二小っ子祭り」です。この行事は創立記念をお祝いする祭りで、6年生が、水風船やスライム、ゲームなどを約1か月かけて準備を行い、下級生が楽しめるよう自分たちで運営します。当日、下級生は班毎に午前中一杯かけて各コーナーを回り楽しみます。全校生が笑顔にあふれ、やさしく下級生の面倒を見る6年生の姿には、いつも頼もしさと心の成長を感じさせられます。下級生からは「6年生になったら、今の6年生のように下級生を楽しませるんだ」という発言を多く耳にすことができ、白二小の最高学年はこうでないといけないという伝統が自然と引き継がれる、とてもすてきな行事です。その日のお弁当を二小の文字や校章で飾り、一緒に祝ってくれる保護者もいます。

「二小っ子」という言葉は、昔から地域の方々が本校の子どもたちを親しみを込めて呼んできた愛称です。地域から愛され、本校の伝統を引き継ぎさらに発展させる「二小っ子」が今年も育っています。



紹 介

「豊かな自然が子どもをはぐくむ学校」

棚倉町立社川小学校

学校のシンボルである「希望の桜」「創造の桜」が今年もきれいな花を咲かせ、観る者的心を和ませてくれました。本校は今年、創立144周年を迎え、「やさしく かしこく たくましく」を学校教育目標に、知・徳・体の調和のとれた子どもたちの育成をめざしています。

平成9年に完成した現在の校舎は、当時「文教施設のインテリジェント化」構想に基づき、子どもたちの体験活動を重視し、豊かな自然と調和のとれた教育を推進するとともに、地域の文化センター的役割をもった、地域に開かれた学校にすることをめざしました。

本校は約7haの敷地を有し、自然林に囲まれ、カッパ池と称する大きな池には鯉や水鳥が生息し、リスや野ウサギが教室の近くまでやって来る環境にあります。その中で子どもたちは、さまざまな体験を通して心を豊かにし、学力を高めています。

このように豊かな自然と心優しい地域の方々に見守られ、素直で明るい162名の子どもたちが毎日元気に学校生活を送っています。



新任の先生方から



「新任校長として」

白河市立信夫第二小学校
校長 塩田 明美

十数名の歴代PTA会長の協力のもと行われる年3回のPTA奉仕作業。会員数の減少による、学区内の準会員からのPTA活動賛同金による支援。保護者や地域の方々の温かい支援により教育活動が推進できることを実感するとともに、校長としての責任の重さを強く感じています。

日々、仲間とともに頑張る子どもたちと、子どもたちの力を伸ばそうと、真剣に向き合う教育愛あふれる12名の教職員。このすばらしい子どもたちと教職員、そして保護者、地域の方々のために、校長として「一人一人が生き生きと輝く学校づくり」に全力で取り組んでいきたいと思います。



「子どもたちに寄り添って」

矢祭町立矢祭中学校
校長 草野 仁

前職に在る時、ある方から「寄り添うとは、情緒的な態度ではなく、相手を深く理解し、親身にかかわり続けることです」と教えていただきました。

この春、久慈川の川面が白く映ゆる矢祭の地に赴任して以来、日々、子どもたちの健やかな成長を願う保護者や町民の方々の思いをひしと感じております。

その思いに応えることができるよう、全職員で子どもたちに寄り添い、子どもたちの良さや抱えもつ課題について理解に努め、一人一人を大切に守り育てていく学校経営を推進していきたいと思っております。



「教頭として」

中島村立吉子川小学校
教頭 中野久美子

「子どもが輝き、先生方が力を発揮できるのは、学校が無事故であってこそ」。自分が果たして学校の役に立っているのかと自信を無くしていた矢先、ご指導いただいた言葉です。私は子どもと先生と学校を守る大切な仕事を任せられると改めて自覚できました。そして、それは校長先生はじめ先生方、保護者の方、地域の方々のご協力があってこそ実現できていると実感しています。

「何事もなかった日」こそ「最高の一日」。学校を施錠するとき、自然と感謝の気持ちが湧いてきます。これからも学校を支え、守る一翼を担っていきます。



「選べない出会いを、 選んだ以上の出会いに」

棚倉町立高野小学校
教頭 有馬 光一

これは、初任校の校長先生の言葉です。4月、選べない出会いにより高野小学校に赴任しました。これを選んだ以上の出会いにするためには、教頭として、どのような働きが必要なのかを考えながら勤務をしています。そのために、様々な教育活動が学校経営方針に沿っているか、子どもたちのよりよい成長につながっているか、先生方の大きな負担になっていないかなど様々な視点を持ち、確かな判断をして校務に当たりたいと思います。

最後になりましたが、高野小学校を支えてくださっているすべての方々に感謝をしたいと思います。



「自分らしく、一歩一步」

西郷村立米小学校
教諭 松本 和也

子どもの頃からの夢であった小学校教諭として、第一歩を踏み出すことができ、大変嬉しく思います。明るく元気な子ども達と、熱意溢れる先生方に囲まれ、日々、やりがいや、職に対する責任の重さを感じながら、生活を送っています。

小学校教諭として、今自分にできることは何かを常に考えながら生活を送っていきたいと思います。また、先生方の指導力や技術を少しでも吸収することができるよう、常に学び続ける姿勢を忘れずに、自分らしく、一歩一步成長していきたいと思います。



「新任の抱負」

堀町立堀中学校
教諭 猪俣 理恵

堀中学校に教諭として着任してから3か月が過ぎようとしています。新しい土地、そして新しい環境でのスタートには不安もありましたが、同僚の先生方や保護者、地域の方々に支えていただきながら、忙しい中にも充実した日々を送ることができます。元気で素直な子どもたちに囲まれ、担任としてのやりがいや楽しさとともに責任を感じています。

4月に初めて子どもたちと出会ったときの大きな喜びを忘れることなく、子どもたちの気持ちに寄り添いながら、ともに学び、ともに成長することができる教師でありたいと思っています。